

# 造形教育の地域貢献型授業実践に関する研究 (徳川家康公四百年祭+造形学部+静岡刑務所)

A study about modeling educational area contribution type class practice

## キーワード：

徳川家康  
静岡刑務所  
常葉大学造形学部  
絵本

造形教育の地域貢献型授業実践については、特に造形学部のような美術系教育機関では、以前より地域と密接に関わり、美術制作をとおして様々な企画を行ってきた。

今回の地域貢献型授業実践については、徳川家康公四百年祭+造形学部+静岡刑務所の3つのカテゴリーのなかで、新しい地域貢献のあり方を模索した。

## はじめに

美術やデザインは、以前より制作をとおして地域や行政と連携することが多く、特にデザインでは、国民文化祭などのイベントポスターの制作や、街おこし等の一環として作品展示やワークショップの参加を依頼されてきた。

特にデザインなどに関しては、専門性が高いため制作できる人が限られ、大学等の専門分野に依頼されるケースが多い。今回は、常葉大学造形学部と徳川家康公四百年祭（静岡商工会議所）、静岡刑務所の3分担により、絵本の制作をキーワードにそれぞれの役割のなかで地域の連携を試みた。

本年度、平成27年度地域交流・連携推進事業は、採択が7月下旬に行われたため、学生などに計画を周知できなかった。従って、8月～9月の夏季休暇期間が有効に使うことができなかった。また、会計が年内であったため、5ヶ月の期間のなかで事業を推進したことになる。計画を実施するにあたっては大変ハードなスケジュールであった。

## 1. 事業担当者

造形学部 造形学科 加藤 之敏（代表）  
造形学部 造形学科 チラユ・ボンワルット  
造形学部 造形学科 合津 正之助



## 2. 目的・概要

造形教育の授業改善の一環として、地域貢献型の授業形態（授業方法）としての取り組みを模索する。本年度は学生が家康公をテーマにした絵本制作を行うことで、大学の授業を通して静岡刑務所へのデータ提供を行うことで地域貢献を図る。

## 3. 事業内容・方法

2015年度の徳川家康公顕彰四百年記念事業（主催 徳川家康公顕彰四百年記念事業推進委員会  
会場：静岡市・浜松市・岡崎市および静岡県内周辺市町  
期間：平成27年（2015年）1月1日～平成27年12月31日）、本学造形学部デジタル表現デザインコースの絵本制作、さらに静岡刑務所の印刷刑務作業の3つをあわせて、造形教育の地域貢献型授業実践の可能性を追求した。

デジタル表現デザインコースでの絵本の取り組みは、長年の授業での取り組みを重ねて来た結果、原画制作や製本に関しては完成度の高い作品制作が行われるようになった。授業作品のテーマは学生の得意とする自由テーマに任せて来たが、今回は、静岡県にゆかりのある徳川家康公顕彰四百年ということから、家康公をテーマに絵本の制作を行った。

7月研究対象授業科目「15 ワークショップのシラバス作成。7月絵本制作に関する徳川家康逸話の研究（徳川家康の研究者：小和田静岡大学名誉教授による講演の実施。）  
※採択が7月下旬のため実施不可。

8月 - 9月学生による物語の設定と作画の制作実習。  
10月 -11月印刷・製本完成。  
12月静岡刑務所へのデータ提供。  
1月以降刑務所内での製品化。

## 4. 事業成果

- ① 造形学部デジタル表現デザインコース2・3年生による学生8名の絵本のデータと製本の完成。
- ② 徳川家康公顕彰四百年祭絵本贈呈式セレモニーの開催。

このセレモニーは、常葉大学、静岡商工会議所、静岡刑務所の3者による地域推進事業であることから一同に集まる必要性から実施した。また、来賓として、静岡出身の前法務大臣衆議院議員、上川陽子様のお出でいただき、刑務作業としての学生によるデータの提供を強くアピールした。

〈会場〉静岡商工会議所 202 会議室

〈日時〉2015年12月18日（金）14:00～  
 〈主な出席者〉小澤 政治（静岡刑務所所長）、  
 上川 陽子（前法務大臣衆議院議員）、  
 山崎 正（常葉大学静岡キャンパス長）、  
 合津 正之助 常葉大学造形学部長  
 絵本の贈呈：常葉大学造形学部学生から静岡刑務所所長に絵本およびデータの贈呈  
 （造形学部学生制作者8名中7名参加、1名は授業のため欠席）

## 5. 今後の展開

静岡刑務所への作品データの提供は3年前から行ってきた。大学が地域貢献を行うためには、今後も継続する方向性を取ることが望ましい。今回このプロジェクトでは主に大学がプロデュースを行ってきた。静岡商工会議所は、家康公四百年祭のロゴの使用権や贈呈式のセレモニーの会場の提供をしていただいたが、静岡刑務所の協力がやや消極的であると感じている。絵本データの提供後の作業進行状況の報告などが稀薄なところが理由である。従って、大学側が下請け的にデータを提供するのではなく、両者のメリットを最大限に考えて行うことが大切であると考え。今後も造形教育における地域貢献のあり方をさらに考えていくとともに、検討していかなければならないいくつかの問題点がある。

① 絵本制作にかかる費用と授業時間数または制作時間の捻出。（学生の習得単位数を含む）

今回のこの地域連携事業においては、前期より実施できなかったため、できなかった計画があった。

② 原作制作の検討（テーマ設定と情報の収集の仕方）  
 今回は、造形共通科目「15 ワークショップ」で行い、比較的イラストレーション制作の得意な学生が履修を行ったが、ストーリーの構成など十分な原作の情報収集ができずに、原画の制作に入ってしまった。

③ 静岡刑務所での印刷、製本技術の向上。（ブランディングとしての商品開発の検討）

昨年度提供をしたデータは授業で行ったイラストレーションの作品をはがきに印刷する内容であったが、製品としてのクオリティーは不十分なものであった。

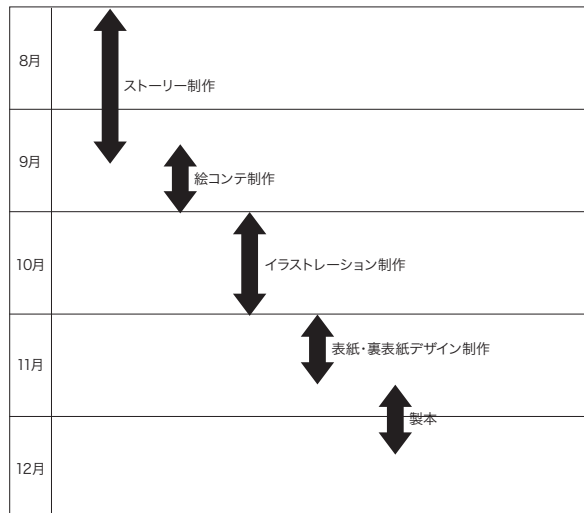
④ 地域貢献としての社会へのアピール。（情報発信）  
 今回はSBSプロモーションの協力をえて、TVのニュースアップや新聞掲載の報道を行っていただいた。地域連携事業においては、活動内容等を広く社会にアピールしていく必要性を感じるが、大学としてのニュース報道のあり方の難しさを感じた。（様々なメディアで報道をするためには、企画内容をニュースアップに応じたものに考慮する必要がある）

## 制作スケジュール

絵本の制作にあたっては、デジタル表現デザインコースで長年授業として絵本の制作を研究してきた。イラストレーションを活用した作品制作として教材としては、取り組みやすい教材の一つである。量産による絵本制作ではなく、一冊づつの手製の絵本制作にとりくんできた。学生が制作した絵本作品を地域交流として公開するには、力量的にはまだ不十分なところはあるが、内容的には、市販されているものと変わらない作品も制作されることがある。

今回は、7月下旬の採択のため、学生には夏季休暇直前にこの地域交流連携推進事業について説明を行った。授業科目は2015 ワークショップの中で実施した。なるべく制作意欲の高い学生に選択してもらうためである。絵本のストーリーに関しては、夏季休暇を利用して、学生に考えてもらうようにした。

テーマ：「徳川家康公に関して」



■家康絵本バックストーリー（一例）

### 【三方ヶ原の合戦】

三方ヶ原の合戦は、元亀3年（1572）、武田信玄と徳川・織田連合軍が浜松市郊外の三方ヶ原台地で激突した戦いで、家康の生涯で最大の敗戦と言われています。武田軍3万人に対して家康軍はわずか1万人足らず。これでは勝負にならないと兜を脱いだ家康は、家臣に化けて命からがら浜松城に逃げ帰ったのでした。城に帰った家康は、敗戦直後の意気消沈した自分の顔の絵を描かせ、生涯この絵を大切にし、敗北を自戒したと伝えられています。

浜松城には、藩政260年の間に25代の城主が誕生しました。在城中に幕府の要職に就いた者も多く（老中5人、大坂城代2人、京都所司代2人、寺社奉行4人※兼任を含む）、浜松城は「出世城」と言われるようになりました。なかでも有名なのが天保の改革を

行った水野越前守忠邦。天下統一を果たした家康にあやかって、自ら進んで浜松城主になったと言われています。（浜松観光ナビ HP より）

当初、徳川家康と佐久間信盛は、武田軍の次の狙いは本城・浜松城であると考え、籠城戦に備えていた。一方の武田軍は、二俣城攻略から3日後の12月22日に二俣城を発すると、遠州平野内を西進する。浜名湖に突き出た庄内半島の先端に位置する堀江城（現在の浜松市西区舘山寺町）を標的とするような進軍であり、浜松城を素通りして三方ヶ原台地を通過しようとしていた。

これを知った家康は、一部家臣の反対を押し切って、籠城策を三方ヶ原から祝田の坂を下る武田軍を背後から襲う積極攻撃策に変更し、浜松城から追撃に出た。同日夕刻には、三方ヶ原台地に到着するが、武田軍は魚鱗の陣を布いて待ち構えており、徳川軍は鶴翼の陣をとって戦闘が始まる。しかし、武田軍に対し兵力・戦術面ともに劣る徳川軍に勝ち目はなく、わずか2時間の戦闘で甚大な被害を受けて敗走する。

武田軍の死傷者200人に対し、徳川軍は死傷者2,000人のほか、鳥居四郎左衛門、成瀬藤蔵、本多忠真といった有力な家臣を始め、先の二俣城の戦いでの恥辱を晴らそうとした中根正照、青木貞治や、家康の身代わりとなった夏目吉信、鈴木久三郎といった家臣、また織田軍の平手汎秀といった武将を失った。このように野戦に持ち込んだことを含めて、全て武田軍の狙い通りに進んだと言えるが、戦闘開始時刻が遅かったことや本多忠勝などが、武田軍相手に奮戦したこともあり、家康を討ち取ることはできなかった

徳川軍の一方的な敗北の中、家康も討ち死に寸前まで追い詰められ、夏目吉信や鈴木久三郎を身代わりにして、成瀬吉右衛門、日下部兵右衛門、小栗忠蔵、島田治兵衛といった僅かな供回りのみで浜松城へ逃げ帰った。この敗走は後の伊賀越えと並んで人生最大の危機とも言われる。浜松城へ到着した家康は、全ての城門を開いて篝火を焚き、いわゆる空城計を行う。そして絵師を呼んで顰像（#顰像（しかみ像））を描かせると、湯漬けを食べてそのままいびきを搔いて眠り込んだと言われる。この心の余裕を取り戻した家康の姿を見て将兵は皆安堵したとされる。（wikipedia より）

合戦シーン  
猫と虎が戦っている。  
石を投げたり、  
弓を射ったり  
砂埃ボーボーで両軍  
入り乱れている

※ここはセリフなし。ワーワー、とか  
ヒュンヒュン、ドカドカといった擬音のみ

馬に乗って敗走する  
家康。供回りは2～3騎

「まけじゃー、まけじゃー」  
「との、ここはひとまずにげてください」  
※家臣が身代わりになり、討たれていく。  
後ろ髪引かれながらも、浜松城を目指す。  
後ろを振り返りながら、逃げる家康猫たち

大きく開かれた城門  
の中に走り込む家康。

「がかりびをたけ!!」  
「たいこをうちならせ!!!」  
※まだ負けてない、と相手に思わせる  
策略を指示する家康猫。最後のがんばり

「しかみ象」の家康猫

「このおおまけは、いっしょうわすれない」  
「なにかあったら、このえをみて、  
じっくりかんがえるようにする」  
※自分をいさめるための「しかみ象」。  
ここはセリフというよりは心の中の声として表現

天下統一後の家康猫。  
つまり年取った家康猫。  
ふっくら福々しい顔。  
立ち姿。

・人は負けることを知りて、人よりましき勝れり  
・戦いでは強い者が勝つ。辛抱の強い者が  
・願いが正しければ、時至れば必ず成就する

～徳川家康公格言より～

浜松城の前を通り  
過ぎる武田軍

「さあミヤコをめざせ!!」  
「そんなちっぽけなハママツジョウなどムシ、ムシ」  
※馬上で徳川軍をあざ笑う武田信玄虎

浜松城の中で家臣と  
相談する家康

「なに!シンゲンめ、ムシやがって!しゅつじんじゃー」  
※血相変えて怒る家康猫  
「との、てきはたいぐん。ここはシロにこもってたたかう  
ほうがだいじだと」  
※出陣をいさめる家臣猫

信玄を追う、家康軍

「まて、まてーシンゲン!みかわぶしにおそれをなしたかー」  
※調子にのって信玄虎を追う、家康猫。家臣猫も続く

待ち伏せしている信玄  
まんまとひっかかった  
家康を見て  
ニヤリと笑う

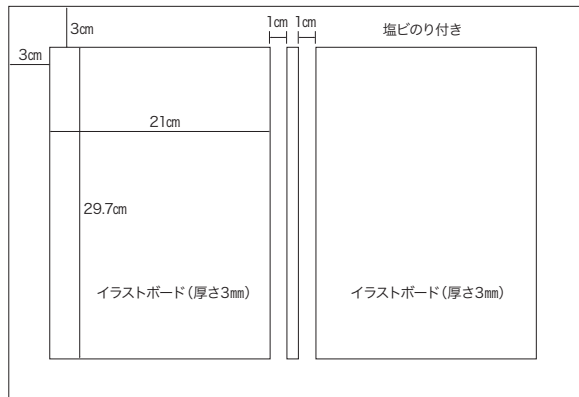
「きおった。きおった。バカめが」  
「それ、いえやすぐんをやっつけろー」  
※信玄虎は3万の大軍で迎え撃つ。  
※絵は大軍横並びと吹き出しで信玄虎ニヤリ

あまりの大軍に驚く  
家康  
しまっと  
思ってももう遅い

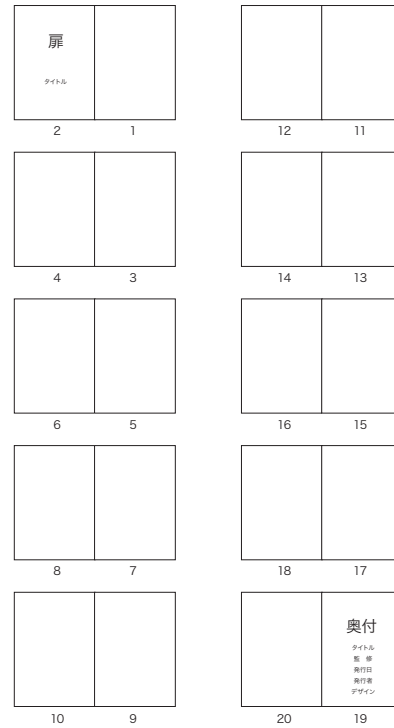
「しまった、ワナだった」  
※失敗した顔の家康猫  
※あーあ、という表情の家臣猫

## ■割り付け表（一例）

〈表紙・背・裏表紙カバー〉



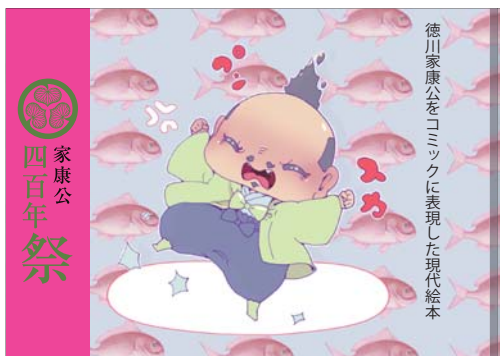
〈本文：縦書き〉



## ■申請に使用したロゴ・シンボルマーク使用サンプル版

徳川家康公四百年記念事業ロゴについては、徳川家康公顕彰四百年記念事業推進委員会に申請をして徳川家康公四百年記念事業ロゴを使用した。目的は、徳川家康公四百年記念事業として地位推進事業として参加

をするためである。使用用途は、絵本の外側の帯にロゴ・シンボルマークを入れてデザインをまとめた。



絵本サンプル②（コミック版）



絵本サンプル①（現代版）



〈徳川家康公顕彰四百年記念事業〉



2015年

徳川家康公  
顕彰 四百年  
記念事業



平成27年

徳川家康公  
顕彰 四百年  
記念事業



2015年

徳川家康公  
顕彰 四百年  
記念事業



平成27年

徳川家康公  
顕彰 四百年  
記念事業

〈家康公四百年祭〉



家康公  
2015年  
四百年祭



家康公  
平成27年  
四百年祭



2015年

家康公  
四百年祭



平成27年

家康公  
四百年祭

徳川家康公顕彰四百年祭絵本贈呈式セレモニーは、常葉大学、静岡商工会議所、静岡刑務所の3者による地域推進事業であることから一同に集まる必要性から実施した。また、来賓として、静岡出身の前法務大臣衆議院議員、上川陽子様に出席をお願いした。

会場の申請に関しては、株式会社SBSプロモーションに依頼して協力をお願いした。

徳川家康公顕彰四百年祭絵本贈呈式セレモニー式次第

会 場：静岡商工会議所 202 会議室  
静岡市葵区黒金町 20-8

日 時：2015 年 12 月 18 日（金）14：00 ～（1 時間程度）

あいさつ：小澤 政治 静岡刑務所所長

あいさつ：山崎 正 常葉大学静岡キャンパス長

来賓のあいさつ：

前法務大臣 衆議院議員 上川 陽子

絵本の贈呈：

常葉大学造形学部学生から静岡刑務所所長に  
絵本およびデータの贈呈（造形学部学生制作  
者 8 名中 7 名参加）

閉会の辞：合津 正之助 常葉大学造形学部長

テレビ放映


12/18（金）NHK 静岡放送「たっぷり静岡」

12/24（木）SBS 静岡放送

「S o l e いいね！」

新聞掲載 12/19（土）静岡新聞 中部朝刊

協力：株式会社SBSプロモーション



2015年  
**家康公  
四百年祭**

**徳川家康公顕彰400年記念  
絵本贈呈式セレモニー**

会 場：静岡商工会議所 202会議室 静岡市葵区黒金町20-8

時 間：14:00～(1時間程度)

一、静岡刑務所所長あいさつ


一、常葉大学静岡キャンパス長あいさつ

一、来賓のあいさつ 前法務大臣 衆議院議員 上川 陽子様

一、絵本の贈呈

常葉大学造形学部学生から静岡刑務所所長に絵本およびデータの贈呈

一、閉会の辞 常葉大学造形学部長



徳川家康公顕彰四百年祭絵本贈呈式セレモニーポスター



## ■テレビ放映

12/18 (金) NHK 静岡放送「たっぷり静岡」

12/24 (木) SBS 静岡放送

「S o l e いいね！」



■新聞掲載 12/19 (土) 静岡新聞 中部朝刊

常葉大生が家康の絵本  
静岡刑務所に見本贈呈



## ■ Web サイト (トップ)



## 事業成果の学内・学外への発信

事業成果の学外の発信としては、Web からの閲覧ができるようにした。このサイトは、デジタル表現デザインコースのブログ（常葉大学公式サイトにリンク）の中に開設をした。主にセレモニーの様子と学生の絵本を PDF にして閲覧できるようにした。

## 1. 学内作品展示

会 場：常葉大学3号館3階ギャラリー

期 間：平成 28 年 1 月 14 日～1 月 20 日

デジタル表現デザインコース2年生の授業作品と合同展示。

## 2. 学外への発信

ホームページへの掲載。

デジタル表現デザインコースブログに開設。

URL:<http://tokodai.com/digital/pg241.html>

揭載内容：

徳川家康公顕彰四百年記念絵本贈呈式セレモニー

絵本 PDF データ (8 冊分) 閲覧可能

ほのおのゆめ



家族とごはん





家康公と新人君



おとのさまとあずきもち



## 徳川家康と可垂斎



等善和尚に会いにきた竹千代は  
等善和尚にあるおねがいをしました。  
「私は父上の葬儀にも墓参りにも行け  
ていません。一度でいいから墓参りを  
したいです。」



「そんなになしそうな顔をしては  
いけないよ。私が父君のもとへつれて  
行ってあげよう。」  
等善和尚の言葉を聞き、竹千代から笑  
顔がこぼれました。  
こうして竹千代は亡くなった父の墓参  
りをすることができたのです。

## 勝つのはどっちだ




「それ、みたことか。」  
たけちよはわらって  
かしのあたまを、コツンとこづいたようです。





四〇〇年越しの  
**祝辞**



吉永 玲奈

